

■ 教員紹介

<b>アシュウェル, ティム 教授</b> 専門分野：応用言語学・外国語教育	
<b>研究内容</b>	現在一番興味があるのは、「外国語文法指導の効果の測定法」である。誘出的模倣テスト (Elicited Imitation Test) の開発を進めている。主目的は、日本人学生の英語テスト項目の音声データベース化 (1) を行い、(1) を利用した音声認識ソフトによるEテスト (誘出的模倣テスト) の採点の可能性を探ることである。
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>「Patterns of Teacher Response to Student Writing in a Multiple-Draft Composition Classroom: Is Content Feedback Followed by Form Feedback the Best Method?」 Journal of Second Language Writing 第9号, 2000年</li> <li>「The Effectiveness of Form-focused English Teaching Materials」. In B. Tomlinson &amp; H. Masuhara (Eds) Research for Materials Development in Language Learning: Evidence for Best Practice. London: Continuum, 2011年</li> <li>「An Investigation of Integrated and Closely Sequenced Form-Focused Instruction」 JALT Journal Vol. 37, No. 2, 2015年</li> </ol>
<b>阿部 康人 講師</b> 専門分野：コミュニケーション学	
<b>研究内容</b>	「市民参加」と「データ/メディア」と「コミュニケーション」をキーワードに福島第一原子力発電所事故以降の市民による放射線測定の実践を調査しています。そのほか、デジタルメディアを活用した市民による異文化コミュニケーション戦略に関する研究、およびマスメディアの報道分析に関する研究なども行ってきました。
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Abe, Y. (2017). Mina no Data Site (MDS) and the culture of measurement after Fukushima. Unmediated: Politics and Communication (1), 68-72.</li> <li>Abe, Y. (2017). Why manga matters after Fukushima. NMC Media-N: Journal of New Media Caucus. Link to full text: <a href="http://median.newmediacaucus.org/uncovering-news-reporting-and-forms-of-new-media-art/why-manga-matters-after-fukushima/">http://median.newmediacaucus.org/uncovering-news-reporting-and-forms-of-new-media-art/why-manga-matters-after-fukushima/</a></li> <li>Abe, Y. (2017). Reimagining Riben Guizi: Japanese tactical media practice after the 2010 Senkaku/Diaoyu boat collision incident. International Journal of Communication, 11, 344-362. Link to full text: <a href="http://ijoc.org/index.php/ijoc/article/view/3063/1906">http://ijoc.org/index.php/ijoc/article/view/3063/1906</a></li> <li>Abe, Y. (2014). Safecar or the production of collective intelligence on radiation risks after 3.11. Japan Focus. Link to full text: <a href="http://www.japanfocus.org/-Yasuhito-_Abe_/4077">http://www.japanfocus.org/-Yasuhito-_Abe_/4077</a></li> <li>Abe, Y. (2013). Risk assessment of nuclear power by Japanese newspapers following the Chernobyl nuclear disaster. International Journal of Communication 7, 1968-1989. Link to full text: <a href="http://ijoc.org/index.php/ijoc/article/view/1848/982">http://ijoc.org/index.php/ijoc/article/view/1848/982</a></li> </ol>
<b>石川 憲洋 教授</b> 専門分野：モバイルユビキタスコンピューティング、スマートホーム	
<b>研究内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>異種ネットワーク環境において、PC、スマートデバイス、情報家電、白物家電、ヘルスケア機器、IoTデバイス (センサデバイスなど) の様々なデバイスをシームレスに接続するためのオーバーレイネットワークのアーキテクチャ、プロトコル、メタデータ及びアプリケーションに関する研究</li> <li>モバイルインターネットプロトコル及びモバイルアプリケーションに関する研究</li> <li>次世代インターネットアーキテクチャ及びプロトコルに関する研究</li> <li>コンシューマ・デバイス (スマートフォン等) 及びコンシューマ・サービス (スマートホーム等) に関する研究</li> </ol>
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>PUCC Activities on Overlay Networking Protocols and Metadata for Controlling and Managing Home Networks and Appliances, Proceedings of THE IEEE, Vol.101, No.11, PP.2355-2366 (2013)</li> <li>Mobile Peer-to-Peer Computing for Next Generation Distributed Environments: Advancing Conceptual and Algorithmic Applications (Edited By Boon-Chong Seet) : Chapter XVII (Peer-to-Peer Networking Platform and Its Applications for Mobile Phones), Information Science Reference, pp.374-396, IGI Global (2009)</li> <li>PUCC Architecture, Protocols and Applications, 4th IEEE Consumer Communications and Networking Conference (CCNC 2007) (2007)</li> <li>Experiment on and Analysis of Mobile Content Transformation using XSLT, Software: Practice and Experience, John Wiley &amp; Sons, Vol. 36, Issue 7, pp.761-783 (2006)</li> <li>Domain Constrained Multicast: A New Approach for IP Multicast Routing, Telecommunication Systems Journal, Springer, Vol.27, Issue 2 - 4, pp.207-227 (2004)</li> </ol>
<b>石橋 直樹 講師</b> 専門分野：情報学、ソフトウェア工学、データベースシステム、マルチメディアシステム	
<b>研究内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>エネルギー、安全保障等の社会問題を対象として情報技術を適用するガバナンス・デザイン</li> <li>ソーシャル・メディアの応用によるマシン間コミュニケーションの実現</li> <li>デジタル・アーカイブ・システムの実現</li> <li>既存の異種データベース群の統合を実現するマルチデータベースシステムの実現と分散する知識の応用開発</li> <li>時空間的なデータベース検索、および、データベース統合環境の実現</li> <li>音楽などのマルチメディアデータを対象とした感性情報処理</li> <li>World Wide Web環境を対象としたベンチャー・インキュベーション</li> </ol>
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>石橋直樹, 鈴木達治郎: 「非核投票キャンペーン」, available on WWW: <a href="http://3nnp.jp/">http://3nnp.jp/</a> 石橋直樹, 高瀬香絵: 「CO2free.jp Project」, available on WWW: <a href="http://co2free.jp/">http://co2free.jp/</a></li> <li>N. Ishibashi, N. Yoshida, M. Minami, S. Washio, N. Ishikawa, and N. Saito: "Machine-Machine Communications Using Relationships in Social Media," The 2nd International Conference on Consumer Electronics, Communications and Networks (CECNet 2012), Vol. 4, pp.2688-2691. (2012)</li> <li>石橋直樹, 細川宜秀, 清木康: "時空間的文脈に応じた動的関連性計量機構を有する異種データベース間結合方式" 情報処理学会論文誌データベース, Vol.43, No.SIG2 (TOD13), pp.128-145. (2002)</li> <li>石橋直樹, 清木康, 中神康裕, 佐藤聡: "複数の音符列から構成される音楽データを対象とした印象メタデータ抽出方式" 日本データベース学会 Letters, Vol. 2, No. 2, pp.61-64. (Oct., 2003)</li> </ol>
<b>各務 洋子 教授</b> 専門分野：グローバル経営論	
<b>研究内容</b>	現代企業のグローバル展開に焦点をあて、企業の所属する業界構造とその変容、利害者集団との関係、競争状態の変化といった外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報を軸とした内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、マネジメント形態等を研究する。特にグローバル化時代に必須の要素として、グローバル企業の多種多様なメディア戦略、メディアマネジメントと企業持続性の仕組みについて企業戦略論を軸として分析する。実証研究を重ねると同時に、グローバル戦略における理論的フレームワーク構築に取り組む。
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>各務洋子「グローバル企業のメディアマネジメントに関する一考察—発信力が組織の持続性に及ぼす影響」『研究所年報』第30号, 駒澤大学マスコミュニケーション研究所発行, 2012年。</li> <li>各務洋子「ハリウッドの経営戦略」菅谷実, 中村清, 内山隆編『映像コンテンツ産業とフィルム政策』丸善株式会社, 2009年。</li> <li>Kagami, Yoko, "Global Management for the Content Generating Firms-Multiplatform Strategy Performance in Globalizing Processes," Journal of Global Media Studies, Vol. 1, 2007.</li> <li>各務洋子「コンテンツのデジタル化とトランスナショナル戦略—プラットフォームの多様化とグローバル化という課題」菅谷実, 宿南達志郎編『トランスナショナル時代のデジタル・コンテンツ』慶應義塾大学出版会, 2007年。</li> <li>各務洋子「世界のコンテンツ産業の企業行動—メディアアングロマリットの動向を中心として」長谷川文雄, 福富忠和編『コンテンツ学』世界思想社, 2007年</li> </ol>

<b>川崎 賢一 教授</b>		専門分野：文化社会学
<b>研究内容</b>	研究内容について、文化的グローバル化の現代文化システムを、文化政策・文化産業・文化交流の3つの領域から、比較的観点から社会的に追及することを目指してきた。その際、キーになるのは、都市で、世界都市・グローバル都市・グローバルクリエイティブ都市。そして近年はスマートシティを視野に入れながら、研究を進めてきた。具体的な対象としては、アメリカ（ニューヨーク）・ヨーロッパ（ロンドン・パリなど）・アジア（ソウル・北京・上海・香港・シンガポール・東京など）など、多元的に分析枠組や分析内容を様々な機会に発表してきた。	
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>川崎賢一、「国家戦略としての文化振興」、シンガポール日本商工会議所月報、2012年3月号、6-12頁</li> <li>川崎賢一、「グローバル化時代に私たちはメディアとどうかかわるのか」（『グローバル文化学：文化を超えた協働』、小林誠・熊谷圭知・三浦徹（共編）に所収）、2011年、114-160頁、法律文化社</li> <li>Kenichi Kawasaki, "Asian Identity: An Overlapping Identity, Everyday Cosmopolitanisms and Transformative Culture", International Forum on Identity and Peace in Asia, KOREAN UNESCO, 2011, p.p.237-265</li> <li>小川葉子・川崎賢一・佐野真由子（編・著）、「&lt;グローバル化&gt;の社会学：循環するメディアと生命」、恒星社厚生閣、2010年、285頁</li> <li>川崎賢一、『トランスフォーマティブ・カルチャー：新しいグローバルな文化システムの可能性』、けいそう書房、2006年、344頁</li> </ol>	

<b>絹川 真哉 教授</b>		専門分野：応用ミクロ経済学・計量経済学
<b>研究内容</b>	産業組織論、法と経済学の分野を中心に、応用ミクロ経済モデル、計量経済分析を用いた理論・実証研究を行っている。主なテーマは、特許・著作権を中心とする知的財産権の制度、国や企業のイノベーション戦略などである。現在、前者に関しては、著作権法の権利制限の制度設計問題、後者に関しては、大学における商業研究の拡大の影響について研究を行っている。	
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>絹川真哉2018「著作権法におけるルール対スタンダード：フェアユースの法と経済学」<i>Journal of Global Media Studies</i>, 22, pp. 59-70.</li> <li>Shinya Kinukawa, 2017, "Exploring a Better Design of copyright Law," <i>Review of Economic Research on Copyright Issues</i>, 14(1), pp. 55-80.</li> <li>Shinya Kinukawa and Kazuyuki Motohashi, 2016, "What determines the outcome of licensing deals in market for technology? Empirical analysis of sellers and buyers in biotechnology alliances," <i>International Journal of Technology Management</i>, 70(4), pp. 257-280.</li> <li>Yasuhiro Arai and Shinya Kinukawa, 2014, "Copyright Infringement as User Innovation," <i>Journal of Cultural Economics</i>, 38(2), pp.131-144.</li> </ol>	

<b>高 媛 教授</b>		専門分野：社会情報学、歴史社会学
<b>研究内容</b>	ツーリズムとメディアをキーワードに、近代日本がアジアで行っていた観光活動を題材として、メディアによって構築される文化と国家のさまざまなありようを、歴史社会学のアプローチから捉えることを目指してきた。具体的に、日露戦争後から終戦までの間、「満洲」（現・中国東北部）における日本の観光開発に焦点を当て、絵葉書や旅行パンフレット、旅行雑誌、観光映画といった観光メディアの役割を検証してきた。また、戦後における満洲の観光地の変遷も視野に入れ、ポスト・コロニアルな視点から戦争と植民地の記憶の商品化について考察を行っている。	
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>論文（単）「満鉄の観光映画——『内鮮満周遊の旅 満洲篇』（1937年）を中心に」『旅の文化研究所研究報告』第28号。旅の文化研究所。43-65頁。2018年12月</li> <li>論文（単）「戦争の副産物としての湯尚子温泉」『湯尚子温泉株式会社二十年史』（千葉千代吉編。湯尚子温泉株式会社刊。1941年。復刻版）。ゆまに書房。3-19頁。2016年</li> <li>著書（共）『満蒙開拓青少年義勇軍の旅路——光と闇の満洲』。旅の文化研究所編。森話社。「招待旅行にみる満洲イメージ」担当。36-67頁。2016年</li> <li>論文（単）「観光・民俗・権力——近代満洲における「娘々祭」の変容」『旅の文化研究所研究報告』第25号。旅の文化研究所。75-91頁。2015年12月</li> <li>論文（単）「帝国の風景——満洲における桜の名所『鎮江山公園』の誕生」『Journal of Global Media Studies』第11号。駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部。11-23頁。2012年12月</li> </ol>	

<b>芝崎 厚士 教授</b>		専門分野：国際関係論、国際文化論、国際関係思想、グローバル交流論
<b>研究内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>従来の「国際関係論」「国際政治学」を乗り越える新しい学問としての「グローバル関係論」を構想し、構築する学問論的研究</li> <li>国際関係における文化をグローバルな視点からとらえる、思想的、実証的、理論的研究</li> <li>国際関係を動かす力としての「感情」に関する理論的研究</li> <li>「グローバルな世界の読み書き」能力を向上させる授業実践の研究</li> <li>国際関係をめぐるさまざまなメディア表象を学際的に分析する実証的、理論的研究</li> </ol>	
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>『近代日本と国際文化交流 国際文化振興会の創設と展開』有信堂高文社、1999年</li> <li>『近代日本の国際関係認識』創文社、2009年</li> <li>『国際関係研究における人間観 恐怖の国際関係論』平野健一郎、土田哲夫、古田和子、川村陶子編『国際文化関係史研究』東京大学出版会、2013年</li> <li>『対外文化政策思想の形成と展開 戦前・戦後・冷戦後』酒井哲哉編『岩波講座 日本の外交 第3巻 外交思想』岩波書店、2013年</li> <li>『脱国民国家の思想からオルター国民国家の思想へ 入国民国家の思想をてがかりに』刈部直編『岩波講座 日本の思想 第6巻 秩序と規範』岩波書店、2013年</li> </ol>	

<b>杉森建太郎 講師</b>		専門分野：英語教育、異文化コミュニケーション
<b>研究内容</b>	<p>心理的要因や文化的要因が言語学習やコミュニケーションに及ぼす影響に興味があります。特に関心のあるのは以下のテーマです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>英語教育と差別</li> <li>在日タイ人の言語保持とアイデンティティ</li> <li>言語政策</li> <li>在日外国人への日本語教育支援</li> </ol>	
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>「Teaching intonations to determine discourse structures to elementary school students using Karuta (card game)」<i>[Temple University Japan, Studies in Applied Linguistics]</i> 第39号、2004年</li> <li>「Materials for reading aloud by teachers of very young Japanese learners」<i>[文京学院大学外国語学部/文京学院短期大学紀要]</i> 第4号、2005年</li> <li>「Application of Self-determination theory: Helping Japanese university students with low English proficiency using appropriate teachers' communication style」<i>[学苑]</i> 第799号、2007年</li> <li>「The needs and motivation of Japanese university students with low English proficiency within the framework of Self-determination theory」<i>[学苑]</i> 第802号、2007年</li> <li>「10年間の教育と研究の回顧と今後の展望：TESOLから差別まで」<i>[ジャーナル・オブ・グローバル・メディア・スタディーズ]</i> 第17、18号、2016年</li> </ol>	

■ 教員紹介

<b>テツカヨシハル 教授</b> 専門分野：社会学メディア文化研究，文化産業研究，映画研究	
<b>研究内容</b>	(1) 日本の映画産業の越境化，特に他のアジア地域の映画産業との人材移動や交流を通していかに「Asia」と「Asianness」が想像され構築されつつあるか。(日本の国民映画と国民意識の変容，特に西洋からの精神的脱植民化とアジアにおける脱帝国化に関わる。) (2) 20世紀後半に日本を出て行った在外日本人：“Japanese Diaspora”とその文化，コミュニティ形成に関わる研究。 (3) 日本の文化的少数者による映像制作と多文化共生社会化に関わる研究。 (4) 映像コミュニケーション・ツールの普及と社会変革の可能性に関わる研究
<b>研究業績</b>	1. Japanese Cinema Goes Global: Filmworkers Journeys, Hong Kong University Press, 2011. 2. 映像のコスモポリティクス：グローバル化と日本，そして映画産業，せりか書房，2011。 3. “Global America? : Japanese-American Co-Productions from Shogun (1980) to Lost in Translation (2003)” in Cultural Studies and Cultural Industries in Northeast Asia: What a Difference a Region Makes (ed.) C.Berry et. al, Hong Kong University Press, 2009.
<b>西岡 洋子 教授</b> 専門分野：メディア産業論，制度論，比較制度分析	
<b>研究内容</b>	ゲーム理論における均衡としての制度を基本概念として，メディア産業に焦点をあてつつ，複雑に絡み合いながら存在している産業エコシステムやガバナンス構造の現状および進化について研究している。現在は，ネットワークの成長と制度形成の関係のほか，グローバルな仕組みとしてのインターネット・ガバナンス構造の成り立ちと進化，グローバルとリージョナルなガバナンス構造の関係性などについて分析している。また，インターネットを用いたコンテンツ・プラットフォームの形成に関わる産業構造や制度環境の国際比較についても扱う。
<b>研究業績</b>	1. 西岡洋子 (2007) 『国際電気通信市場における制度の形成と変化：腕木通信からインターネット・ガバナンスまで』慶應義塾大学出版会。 2. 西岡洋子 (2010) 『英国BBCを取り巻く制度とイノベーション：IPTVサービスの取り組みを例として』『公益事業研究』61 (4)。 3. Nishioka, Yoko and Sugaya, Minoru (2014) “Japan’s Legislative Framework for Telecommunications: Evolution Toward Convergence of Communications and Broadcasting” in Liu, Yu-li and Picard, Robert, G. eds., Policy and Marketing Strategies for Digital Media, New York:Routledge. 4. 西岡洋子 (2015) 『インターネット・ガバナンスの歴史と展開：制度論的一考察』『メディア・コミュニケーション』65。
<b>朴 正洙 教授</b> 専門分野：マーケティング・コミュニケーション，デジタル (ダイレクト) ・マーケティング	
<b>研究内容</b>	1) マーケティング・コミュニケーション 2) デジタル (ダイレクト) ・マーケティング戦略 3) グローバル消費者行動
<b>研究業績</b>	1) 朴正洙編著 (2019) 『実践ダイレクト・マーケティング講義』千倉書房 2) 朴正洙 (2018) 『セレブリティ・コミュニケーション戦略』白桃書房 3) 朴正洙監訳 (2016) 『グローバル・マーケティング・コミュニケーション』千倉書房 4) 朴正洙 (2012) 『消費者行動の多国間分析』千倉書房
<b>服部 哲 准教授</b> 専門分野：社会情報学，システム開発，情報科学	
<b>研究内容</b>	地域社会における様々な課題に向き合っており，ウェブ，モバイル端末，位置情報などのメディア技術をどのように地域社会に活用していくかを実践的に追究している。具体的な研究テーマとしては，障害の有無に関係なくコミュニケーションを支援するモバイル・アプリの研究，東日本大震災の被災地の復興過程におけるソーシャル・ネットワーク・サービスの研究などに取り組んでいる。
<b>研究業績</b>	1. 『ともに生きる地域コミュニティ 超スマート社会を目指して』電機大出版局，2018年 2. 「ポスター上の任意の座標位置にデジタル情報を関連付け可能なコンテンツオーサリングツールの開発」情報処理学会論文誌 Vol.57, No. 1, pp.270-279, 2016年 3. 「障害児・者向けスケジューリングアプリの試作と考察」第15回情報科学技術フォーラム (FIT2016) 講演論文集, pp.447-500, 2016年 4. 『「思い出」をつなぐネットワーク』昭和堂，2014年 5. 『Webシステムの開発技術と活用方法』共立出版，2013年 6. 「市民活動団体の活動の位置情報の発信と収集のためのWebシステムの構築」社会情報学研究, Vol.15, No.2, 2011年
<b>平井 辰典 講師</b> 専門分野：コンテンツ情報処理	
<b>研究内容</b>	次世代のコンテンツ及びコンテンツを取り巻く環境に関する技術開発，インタラクションデザイン，調査研究。 (1) 音楽・動画・テキストコンテンツの創作支援研究 (2) 音楽・動画コンテンツの鑑賞支援研究 (3) 音と映像の複合情報処理 (Music Video生成，映像へのBGM付与，音の視覚化) (4) 情報技術を応用した新たなコンテンツ/メディアの提案 (5) 先端コンテンツが与える影響，及ぼす変化についての調査
<b>研究業績</b>	1. T. Hirai and S. Sawada, “Melody 2 Vec: Distributed Representations of Melodic Phrases based on Melody Segmentation,” Journal of Information Processing, To appear. (2019) 2. T. Hirai, “Frame Wise Video Editing based on Audio-Visual Continuity,” Journal of Global Media Studies, Vol.23, pp.71-82. (2018) 3. T. Hirai, H. Doi, and S. Morishima, “Latent Topic Similarity for Music Retrieval and Its Application to a System that Supports DJ Performance,” Journal of Information Processing, Vol.26, pp.276-284. (2018) 4. 平井辰典，大矢隼士，森島繁生，「既存音楽動画の再利用による音楽に合った動画の自動生成システム」，情報処理学会論文誌，Vol.54, No. 4, pp.1254-1262. (2013) 5. 平井辰典，中野倫靖，後藤真孝，森島繁生，「シーンの連続性と顔類似度に基づく動画コンテンツ中の同一人物登場シーンの同定」，映像情報メディア学会誌，Vol.66, No. 7, pp.J251-J259. (2012)
<b>星野 真 講師</b> 専門分野：開発経済学	
<b>研究内容</b>	現代中国における所得分配，地域格差を研究している。経済統計の定義，国際比較にも関心を広げている。
<b>研究業績</b>	1. “Convergence Clubs in China: A Comparative Analysis of East Asia and Emerging Nations,” International Journal of Economics and Business Modeling, 5 (1), 2014年. 2. 「地域経済格差」『ユーラシア地域大国の持続的経済発展』ミネルヴァ書房，2013年. 3. “Measurement of GDP per capita and Regional Disparities in China, 1979-2009,” RIEB Discussion Paper Series, DP2011 (17), 2011年. 4. 「中国内陸部における政府間財政移転の決定要因と再分配効果—県レベルデータを用いた実証分析」『アジア研究』55 (1), 2009年.

<b>松前 恵環 講師</b>	専門分野：情報法、プライバシー・個人情報保護法
<b>研究内容</b>	<p>(1) 情報法に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マス・メディアの表現の自由や名誉毀損といった、メディアに関する法制度を巡る伝統的な問題に加え、著作権法をはじめとする知的財産権法や情報媒介者であるISPの責任、個人情報保護法、情報公開法、サイバー犯罪等の問題も含め、情報に関わる法制度のあり方について広く研究を行っている。</li> </ul> <p>(2) プライバシー・個人情報保護法に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プライバシー：個人情報の保護に関する法制度について、EUや米国の法制度と日本の法制度との比較法的考察を行い、日本のプライバシー・個人情報の保護に関する法制度のあり方について研究を行っている。</li> <li>新たな情報技術の進展との関係で生じるプライバシー・個人情報の保護の問題に焦点を当て、社会の変化に即したプライバシー・個人情報保護法制のあり方について研究を行っている。</li> </ul>
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>松前恵環「グーグル問題(2)：位置情報とプライバシー」多賀谷一照、松本恒雄編『情報ネットワークの法律実務』追録第76-79号4777の1-14(-4778)頁(第一法規, 2017年12月)</li> <li>松前恵環「社会保障・税番号制度とプライバシーに関する一考察：個人番号の利用範囲の拡大を巡る課題に注目して」『Journal of Global Media Studies』17-18合併号191-206頁(2015年3月)</li> <li>松前恵環「個人によるカメラ監視と米国不法行為法上のプライバシー権の限界：「ポリオプティコン」の時代におけるプライバシー」『社会情報学研究』16巻2号111-127頁(日本社会情報学会, 2012年3月)</li> <li>松前恵環「位置情報技術とプライバシーを巡る法的課題：GPS技術の利用に関する米国の議論を中心に」堀部政男編著『プライバシー・個人情報保護の新課題』235-286頁(商事法務, 2010年4月)</li> <li>松前恵環「国際的な個人情報の流通とプライバシーに関する考察」『InfoCom Review』45号28-52頁(情報通信総合研究所, 2008年7月)</li> </ol>
<b>山口 浩 教授</b>	専門分野：経営学
<b>研究内容</b>	<p>デリバティブ評価理論を経営学に応用するリアルオプションを、より大きな視点から不確実性を「味方」にする技術としてとらえたことがきっかけで、不確実性に対する新しい対処のあり方を大きなテーマとして取り組んできた。そのため、未来をよりよく知り、あるいは納得して臨むための集合知メカニズム、人間のアイデンティティや社会関係を多重化することでリスク分散を図る仮想世界など、金融の技術、契約の技術、及び情報の技術の新たな融合のかたちとその可能性を探り、様々な機会に発表している。</p>
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>山口浩、「[リアルオプション思考]で入札制度を改革する」(リアルオプションと経営戦略, 高森寛編に所収), シグマベイスキャピタル, 2006年, pp.115-136</li> <li>山口浩「Webコンテンツ産業の経済」(『情報社会論：超効率主義社会の構図』, 加納寛子編に所収), 北大路書房, 2007年, pp.139-193.</li> <li>山口浩「事業計画策定における「予測市場」の活用」(『金融・会計のビジネス数理』, 牧本直樹編, 朝倉書店, 2007年, pp.30-50 (山口浩, 他著))</li> <li>Hiroshi YAMAGUCHI, "On Policy Issues "in" Virtual Worlds: Beyond the "Seniority-Based Dragonball Economy" 『デジタルゲーム学研究』 Vol. 1, No. 1: 2007, 54-64.</li> <li>Hiroshi YAMAGUCHI, "General Election Hatena: The First Political Prediction Market in Japan," 『Journal of Global Media Studies』, Vol. 1: 2007, 71-76.</li> </ol>
<b>吉田 尚史 教授</b>	専門分野：情報工学、データベースシステム、マルチメディアシステム
<b>研究内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>メディアデータベースを対象としたデータマイニングおよび分析に関する研究,</li> <li>動画データベースを対象とした検索方式に関する研究,</li> <li>データベース技術の応用による教育システムに関する研究,</li> <li>医療および遺伝子データベースを対象としたデータマイニングに関する研究,</li> <li>ドキュメントマイニングに関する研究,</li> <li>マルチメディアデータベースの実現に関する研究等.</li> </ol>
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Naofumi Yoshida, Jun Miyazaki: A Multi-Disciplinary Approach of Business Architecture and its Business Intelligence Applications for IoT Big Data, The 21st World Multi-Conference on Systemics, Cybernetics and Informatics: WMSCI 2017, pp. 378-380, Orlando, Florida, USA, July 8-11, 2017.</li> <li>Ken HONDA and Naofumi YOSHIDA: An Evaluation Model of Credibility Calculation System for Natural Disasters, The Proceedings of the 27th International Conference on Information Modelling and Knowledge Bases, pp. 464-475, Krabi, Thailand, June 5-9, 2017</li> <li>Naofumi Yoshida: A Mutual Resource Exchanging Model and its Applications to Data Analysis in Mobile Environment, 19th East-European Conference on Advances in Databases and Information Systems (ADBIS2015), Workshop on Data Centered Smart Applications (DCSA 2015), Springer CCIS 539, pp. 251-258, Futuroscope, Poitiers - France, September 8-11, 2015.</li> <li>Naofumi Yoshida: A Mutual Resource Exchanging Model in Mobile Computing and its Applications to Universal Battery and Bandwidth Sharing, Information Modelling and Knowledge Bases XXV, Vol.260, Frontiers in Artificial Intelligence and Applications, pp. 264-271, ISBN: 978-1-61499-360-5 (print), 978-1-61499-361-2 (online), Feb 2014.</li> <li>Pekka Sillberg, Shuichi Kurabayashi, Petri Rantanen, Naofumi Yoshida: A Model of Evaluation: Computational Performance and Usability Benchmarks on Video Stream Context Analysis, Information Modelling and Knowledge Bases XXIV, 251 of Frontiers in Artificial Intelligence and Applications, pp. 188-200, ISBN: 978-1-61499-176-2, 2013.</li> </ol>